

公開授業科目： 「商学概論」（教養発展科目）
授業担当教員： 経営情報系 綿引 宣道 准教授
開講日時・場所： 平成20年7月10日（木）2限、D講義室

授業について

「商学概論」13回目の授業を公開授業とし、綿引准教授が卸売業の変化、消費者主権、消費者教育、企業の社会的貢献について講義し、パワーポイント資料を投影しながら順次説明を加えた。学生と討論しながら、実経験を思い起こさせ、日常生活を考えさせながら理解を深めさせた。必要に応じて指名による質疑応答等を織り交ぜ、講義は進んだ。

討論について

講義終了後、公開授業参加者によるディスカッションを行った。参加者は多くなかったものの、公開授業参加者のほとんどの教員が参加し、高橋准教授の司会の下、様々な意見が出された。

綿引准教授の授業におけるポイントとして「工学系学生が興味を持つ授業内容を行うための対策」¹⁾を重視しているとの発言があった。抑揚を付けて語りかけること、金、欲に絡んだ話を取り入れること、テレビ番組「学校へ行こう」を参考にした授業構成を組むことなど、数多くの工夫を行っていることが披露された。講義室の脇に腰掛けている学生の理解度を高めることや寝ている学生を授業に引き込むための工夫、教科書を鵜呑みにせず教科書を疑うことの必要性を説くこと、落語調の語りかけによる学生向けの言葉遣いの採用など、学生に興味を持たせるために何が必要なのかを常に考え、授業に取り入れていることについても紹介があった。またパワーポイント資料内容と口頭での説明内容を意図的に分け、学生の注意力を散漫にさせない努力を行っていることや本学の学生の傾向としてメモ取りを指示することに素直に応じる一方、素直にメモ取りをすることに対する問題点についても言及があった。

ディスカッションではさらに学生の予習、復習の状況、パワーポイントの公開時期、学生向けの授業アンケートや小試験の実施、レポートによる理解度の向上、対話型授業の必要性などが話題となった。学生は教員の機嫌取りとも取れる意見を述べることもあり、注意が必要であるとの意見がある一方、愛情ある授業を行うことの重要性に関する指摘もあった。またスライドの枚数に関する議論もあり、数多くのスライドは必ずしも効率的ではなく、90分授業では20枚程度のスライドが適当ではないかとの話題提起があり、理解を高めるためのスライドの適量について議論した。

公開授業アンケートでは授業内容に対する肯定的な意見が多かった。一方で授業後半の学生の集中力低下やパワーポイントによる授業のためメモ、ノートを取らない学生への問題点を指摘するコメントも出された。理科系学生ばかりである本学ではこの授業のような純粋な文科系授業を行うことにより、学生に理科系授業との違いを認識させることの必要性を指摘する意見もあった。

8月には2回目の公開授業が実施されるが、学生にとっては専門科目と異なり、特別な印象を持っていると考えられる教養科目に対し、学生に好印象を与え、理解を深めさせるための工夫についてさらに議論を深めていきたい。

1) 参考資料：教師と学生のコミュニケーション (Bourdieu library) (単行本), ピエール ブルデュール (著), Pierre Bourdieu (原著), 安田 尚 (翻訳) 価格： ¥ 3,360 (税込) 藤原書店 (1999/04)